





『浸食の闇』 F60号

浅井 礼二郎 (岐阜県)

【浸食の闇】

この底のコロナと云う大変な時の流れの中に置かれ、やり場のない気持ちでどう処理したものか、自然に置かれた中ででの生活で、気の利かない野の生物たち、各種の樹木、森の木の流れをみると自分の進路する夢の表現、やはり絵は自分の夢を描くものと思う。目前に迫り来る先の風景が明るく美しくもあたたかい。又自然の中で健康されるべき場の中に小さくなった自分が居る。大宇宙の大きな渦の中で自然に消えて行きたい夢の思いです。



『ヒマラヤ』 F3号

今尾 啓吾 (岐阜県)

【ヒマラヤ】

吉祥であると同時に破壊神でもあるシヴァ。ヒマラヤ山脈のカラス山は伝統的にシヴァの住居であるとされているそうです。ガンジス河の支流をさらに登った奥地にケダルナート寺院があり、いつか行ってみたい所です。この絵はヒマラヤで観望するシヴァをイメージして描きました。



『F70』

大柿 了一 (愛知県)

【私の人生は、前半に変革が多かった】

①1939年朝鮮吉州に生まれ、6ヶ月で満洲国牡丹江に移住する。②1946年父母の帰郷、熊本県人吉に引き揚げられ、③子どもの頃画に人が着った絵を描いてあげてもらった。④小学校5年時小学校に入学⑤家で着美画に描った父と母は無名軍人である。⑥朝顔で母姉2人の4人下宿する。⑦市街の家で大都会の騒音におも足でコーリアア畑を逃げる。⑧大道から米軍の船で博多に帰国。⑨父が飛行機墜落で死んだことを知る。私の芸術観として絵画表現に潜むものであろう。



『Vigor 2020』 F130号

長田 文実香 (愛知県)

【Vigor】

今年の作品は、何らかの変化を求めて下地からいつもと違う方法で描いてみた。Vigor=活力、元気、勢い、力、活発いろいろな意味合いを持ちながら、2020年前半はいろいろな考えさせられる年となり、これからもVigor(活動の元)をエネルギーを豊饒・感じながら、制作を進めて行きたい。



『かりんのある構成』 F120号

金井 順子 (愛知県)

【私の作品】

今年出品予定していた作品です。いままでは、抽象ですが風景を描いていましたが多分、風景にはこだわらず、描いています。



『在る』ということ』 F50号

木村 順一 (愛知県)

【「在る」ということ】

若い時から、「自分がここに居る」ということが不思議だった。自分はなぜ存在するのか、逆に自分が存在しない世界はどういう世界か、そう思うと自分が描く絵画は成り立つのか。しかし自分はなぜか存在し、なぜか絵を描いている。絵に意味も価値もない。価値があるなら、その根拠は、自分が存在しているという意志のみであろう。未だに解けない謎である。



『家族・顔』 F130号

長田 昇 (愛知県)

【子供体験】

三つ子の魂100まで、子供たちの成長は知性、感性、体力の中で、右脳から人間形成の土台が育成されます。私も幼い頃絵を30匹以上、空いっぱいに飛ばせ育ちました。跳し中、親が怒で収めた小妻を他の顔していたことに対し、一言も苦情は聞いたことがありません。その為か50才にしてベトナムで見たかいた靴の姿を見た際に購入。Sサイズで柄をやり、懐に入れてアフリカで買った。私の帰郷のエンジン音を聞いて靴が鳴く。それから家内が食事の準備、時空を超えて、靴と靴が響き合ひ、現在の題材になります。



『存在の景』 162cm×260cm

桜井 敬子 (神奈川県)

【画家した毎日の生活(不確かな日々)】

寒いにもあたたかぬ動物たちの呼吸の奥やかさに飲まれて、この作品を描き始めた頃は、冬仕様のバラの枝の存在感と咲き残った秋(バラ)のはかなさ色の裏からエスキースが始まった。冬朝の暗さのゆくゆくと静かさに集かへの制作、植物達の呼吸のためエネルギーを蓄えろの意識ながら自らの生活で全てが止まった。気持ちも、しかし書える多くの時間が与えられ、生きている日々、時間とは何なのかがあるたり来り、当然とらぶって仕度備ににおののき人との出会いにどう話と飲われていたことなどを痛感します。最終的に絵画に向けて動いている方々の健康を祈り感謝する日々です。